

労働災害の約8割は、停車時に発生

停車中の危険は、すぐ側に

フォークリフトから荷物の落下事故編

労働災害は、いつ発生するかわかりません。しかし、事前の対策によりその多くは防止できるでしょう。今回は、フォークリフトに載せていた荷物が落下してきて、その下敷きになった災害例および対策を紹介します。

災害例

フォークリフトに載せていた荷物が落下

倉庫内において、作業者は地上に置かれた荷物が載っている3段積みされたパレットのうち、1段目にある物品を取り出そうとした。そこで2段目と3段目のパレットをリフトし、フォークリフトを後方に移動させた。地上1.5mの高さにリフトした状態で、エンジンをかけたまま駐車ブレーキをかけ、取り出し作業を行っていたところ、突然3段目の荷物が崩れ、作業者に落下し負傷した。



原因

- フォークリフトのエンジンをかけたままで、かつ積み荷をリフトしたまま停車し運転席を離れた
- 積み荷の状態をよく確認せずにリフトした
- 荷物の下で作業した

対策

- フォークリフトの運転席を離れる時は、エンジンを切り、駐車ブレーキをかけ、エンジンキーを抜く
- 積み荷をリフトした状態では絶対に運転席を離れない
- 積み荷をリフトする時は積み付け状態をよく確認する
- フォークや荷物の下には絶対入らない

労働事故防止に向けて、作業者がフォークリフトで荷役作業を行う場合を守る（荷役作業安全ガイドラインより抜粋）

- ・フォークリフトの用途外使用（人の昇降など）は禁止
- ・荷崩れ防止措置を実施
- ・運転時にはシートベルトを着用
- ・フォークリフトを停車した時は逸走防止措置を確実に実施
- ・急停止、急旋回を禁止
- ・荷役作業場の制限速度を遵守
- ・バック走行時には、後方（進行方向）確認を徹底
- ・フォークに荷物を載せての前進時には、前方（荷物の死角）確認を徹底 など

**運転手が注意するのはもちろん、周りの作業者もフォークリフトがどう動くかを
知っておくことが労働災害防止には重要です。**



フォークリフトの安全衛生を
マンガでも紹介

